

第2回 玉野市総合計画策定検討会 議事概要

| | | |
|-----|--------------------------|----------------------|
| 日時 | 令和5年1月31日(火) 14:00~15:50 | |
| 場所 | 玉野市役所 大会議室 | |
| 出席者 | 中村 聡志 (山陽学園大学 教授) | 浜口 誠 (玉野市社会福祉協議会) |
| | 城戸 清宏 (玉野市老人クラブ連合会) | 竹村 篤 (玉野市障害者総合支援協議会) |
| | 平木 由美 (玉野市民生委員児童委員協議会) | 渡邊 正俊 (玉野市医師会) |
| | 浅野 透 (玉野市歯科医師会) | 浅野 聰子 (玉野市栄養改善協議会) |
| | 岡崎 文代 (玉野市愛育委員協議会) | 山口 正 (玉野市文化協会) |
| | 桑原 泰二 (玉野市スポーツ協会) | 中塚 俊道 (玉野市PTA連合会) |
| | 山根 一人 (玉野商工会議所) | 大本 敏文 (玉野地区労働者福祉協議会) |
| | 坂井 心 (玉野市観光協会) | 江田 康夫 (玉野市コミュニティ協議会) |
| | 東 りえ (玉野SDGsみらいづくりセンター) | 中根 正雄 (玉野市消防団) |
| | 小林 弘昌 (公募委員) | 亀田 梱 (公募委員) |
| 事務局 | 柴田 義朗 (市長) | 市倉 勇樹 (副市長) |
| | 中嶋 英生 (政策部長) | 山田 豊伸 (総合政策課長) |
| | 高橋 千恵 (総合政策課長補佐) | |
| 傍聴人 | 7人 | |

議事の概要

1 開会

2 開会あいさつ

座長 : 9月に1回目の検討会を開催し、今回で2回目となる。この間に事務局では具体的な総合計画の案をつくり、市民説明会や未来会議を開催していただいた。この後にはパブリックコメントが実施されており、これらをあわせて3月の議会にかけるというスケジュールになっている。今日この場で出た意見は今後総合計画に反映されると聞いているので、私たちの意見が反映されることを前提に、玉野市の各界の有識者の皆様の立場、あるいは大所高所の立場からご意見を伺い、この総合計画のブラッシュアップを図っていきたいと思う。

3 議事

- 事務局 : 以下の資料により説明
資料1 玉野市総合計画(素案)
資料2 玉野市総合計画(素案)概要版
- A委員 : ただいまの事務局からの説明について意見等はあるか。
- B委員 : 政策5「来て、見て、住みたい、にぎわいあふれるまち」の施策16「産業の振興と継続的な発展」について、現在の玉野市の人口減からすれば産業振興というのは非常に難しいと思う。具体的には企業を誘致するのは必要だと思う。地場の企業がしっかりやっついていかななくてはいけないと思うし、そこで仕

事をして人口が定着するというパターンが生まれてくる。新しい企業も入ってくるがさらに誘致しながら、素晴らしい観光資源もあるので施策 17 のように観光の振興を同時にしていかなないと、人口減を食い止めることは現代においてはできないと思う。人口減のために子どもたちが育っていく環境もないような状況になってしまうので、そのためにはまず経済を優先していかなければならないような状況を、玉野市でやらなければいけないのではないかなと思う。

C 委員 : 消防団に関しては、玉野市は県下でも誇れるほどの充実した体制であると思う。第 1 回の策定検討会でお尋ねした新しい企業の誘致について、新しい企業が入らなくては人口も増えないし、経済状況もよくなる。新しい企業の関連企業の誘致についての話はすすんでいないのか。

市長 : 新しい企業については説明会をおこなった中では、市内にある既存の企業と手を組んでいければという話もあり、具体的に地元企業と部品調達などの話を進めていると聞いている。その他の企業がすぐに入ってくるという話は聞いているが、新たに発展していく可能性があるのではないかなと思っている。

C 委員 : 新しい企業を核としていければ展望が開けるのではないかなと思う。大きなものはなかなかできないので、小さいところから始めて前に進めていけるような方法を考えていただければと思う。

D 委員 : 学校規模の適正化の関係について、各地区での対話集会で学校規模の適正化の意見があがっているが、どの年齢層の方の意見が中心なのか伺いたい。

事務局 : 対話集会に参加された方については地区によって年齢層が異なっており、PTA や保護者などは比較的若く 20 代 30 代の方が多かった。コミュニティの関係については、比較的年齢の高めの方が多かったように記憶している。

D 委員 : 学校の規模適正化というのは、人口が減っていく中できちんとした教育環境を整えていく中では避けては通れない問題ではないかなと思っている。適正規模化に向けた協議を進めていると聞いているが、やはり一部にはお年寄りの方が中心ではないかなと思うが、学校がなくなると地域が寂しくなるからやめてほしいといった意見が出ている。子育て世代からするときちんと立派な社会人になる教育環境を整えて、自分の子どもが社会でしっかり活躍できる環境を整えておかなければならず、そういった環境がないのであればそういった環境の良さを他市に求めていくことにつながるのではないかなと思う。今回の素案についても、若い方たちが将来にわたって住み続けてくれるというコンセプトであるので、色々な意見もありながらも、この学校規模適正化というのは若い方が子育てをする、自分の子どもがどうなるか、というところを主眼に置いて議論を進めていただきたい。

もう 1 点質問で、総合計画の素案の教育環境の充実に関して、他のところもそうだがこの資料の見方として、「今後の主な取り組み」に番号が振られているが、1 に掲げるほうから優先度が高いという見方をすればいいのか、それとも同列で同じレベルで取り組まなければいけないのか伺いたい。

- 事務局** : 「今後の主な取り組み」については、全ての施策において順位付けをしているものではないので、同列ということで考えていただきたい。
- D 委員** : 了解した。その上で 33 ページに 3 つの主な取り組みが書かれているが、先ほど申し上げた小中学校の適正規模化の推進ということと、これに関連する学校施設の整備充実というのがある。現在、学校施設の老朽化があつて、トイレの洋式化や熱中症対策の設備の設置が掲げられているが、一方で玉野市の財政も限りがある。効率化を図りながらそういった推進もしていくことを考えると、この学校規模の適正化を議論して、施設を決めて集中するところにはお金をかけてほしい。統廃合で廃止されているところに先に設備を投資してしまうとそのお金が無駄になってしまうので、財政の面からも見ながら規模適正化を議論し、設備の方にお金掛けて行くという順番が正しいかと思う。
- E 委員** : 総合計画の素案の政策 2 の施策 7 で具体例として「芸術・文化の拠点づくりに向けた検討」を入れていただき非常に嬉しく思っている。現在は中央公民館の中に文化の拠点が間借りして活動しているという状況になっている。宇野駅前での再開発でできるはずだった文化ホールができていないので、その拠点づくりというのはどのような考えを持たれているかお聞きしたい。
- 市長** : 色々な要望があると思うが、私が念頭に置いているのは市民会館がなくなって、音楽や演劇や講演をする場所としてある程度まとまった人数が入るホールがないということがあり、是非そういうものを作りたいという思いでいる。すぐにはできる状況にはないというところで、検討を進めていこうとしている。どのようなものを作るかということについても、市民の皆さんの意見を聞きながら優先順位を立てて、どういう機能を盛り込むかということを検討しながら進めたいと思っている。まずは音楽ホール的なものをと考えている。
- E 委員** : 音楽を実際に活動されている文化協会の中の団体の皆さんは、そういった発表する場がなくなっている。またステージなどで演劇や最近では狂言などもあるが、伝統芸能や芸術などを発信できるものが今までは市民会館だったが、それも含めた岡山市のような文化ホールができると非常にありがたい。その辺はよろしく考えていただきたいと思う。
- 第 1 回の策定検討会で話をしたが、向日比は海水浴場もあつて防波堤で釣りもでき、車も置けるところがあるが、公衆トイレがない。県と話をしたが公園でないと作ってくれないということなので、市にお願いしたい。
- もう一つ、藤井海岸近くのマリナーで土日になると周囲が車でいっぱいなる。漁業をされている方の車も置く所がない。藤井海岸あたりで海に関する施設や駐車場といった施設を玉野市の方から働きかけてほしい。
- F 委員** : 第 1 回の策定検討会でも 18 歳まで公費負担での子育てに関する経済支援をしてはどうかという話をさせていただいた。先ほどの事務局の説明でぼやかされたような感覚を持っている。子育て世代への支援をしてもらいたいと思う。また願いとしては、全ての世代の方々が健康でしっかりと死ぬまで働け

るということでもいい具合になるのではないかと思う。

G委員 : 政策2施策5の「地域人材の育成」というところと、政策7施策25の「多様な地域主体の連携による地域活動の促進」というところが大きく連動していて、地域は人材が高齢化で枯渇しつつある。地域人材の育成について、政策7のところでもう少し強く書いていく方が良いのではないかと思う。今、頑張っている世代の方々が世代交代をうまくしていかないと、いくら子どもが生まれても育っている中で個の活動になると地域連携というものが生まれにくい。地域予算という取り組みの考え方もある。地域予算をつけたいということは、自分たちの地域を自分たちがどう運営していくかということになっていくかと思うが、人材なくしてはおそらくこれは実現しない。そういう観点から、この政策7のところには人材育成のところを強くアピールしていただいてはどうか。

D委員 : 政策6施策19の鳥獣対策の関係で今後の主な取組を掲げているが、ここでは柵などの設置をすることが必要不可欠だが、未設置地域には積極的に働きかけを行うと同時に支障となっている原因を分析していくと書かれている。労働団体としてボランティアでイノシシの柵の設置もおこなっているが、町内の高齢化に伴い重労働となる柵の設置ができるような人がいないということから、ボランティアをやっているというところもある。柵の設置が進まない理由として、町内コミュニティが面倒をみないと柵が設置できないということ、コミュニティ自体がどんどんなくなっていった、面倒をみる人がいないということが大体の理由になっている。よって、柵未設置地域に働きかけをおこなったとしても、おそらく実現しないというのが現実かと思う。そこでここには書かれてないことだが、前回の会議でJ委員からも提案で、市に要望してもマンパワーには限界があるため、色々なところで、全体でまちづくりをやっていくということ働きかけていくことが重要だという意見があったと思う。今日のこの会議の場でもこれだけの数の団体が玉野市に存在しているわけなので、こういった鳥獣対策の協力についても関係諸団体への協力も、市として求めていくというところまで総合計画に書くべきではないかと思う。

H委員 : 基本計画については2023年の4月から計画自体が動くことになるかと思うが、それにしてももう少し具体的な固有名詞が出てきてもいいのではないかと思う。また1つ伺いたいのが、どんな事業をやるについても国の補助や起債がつくつかないということがあるが、財政計画がついてないと絵に描いた餅のようになってしまう。そういった見通し、特に実施計画・財政計画も当然作成されると思うが、その辺の見通しが立って、基本計画はこの4月から4年間のものなので、具体的な名前などがもう少し上がってもいいのではないかという感じがするが、そのあたりはどうか。

事務局 : 具体的な事業でどういうことがあるのかという話だと思う。それについては、総合計画を3月に議会に提出して4月以降実施をするということになっており、この総合計画に基づいて令和5年度については新たな事業をやって

いこうという思いはある。まだ詳細については査定の段階であったり、調整の段階があったりするで、この場で話をすることができないが、新しい総合計画に基づく新しい事業というのを翌年度にはやっていきたいと考えている。また、財政の方については、総合計画にも多少触れているところではある。例えば政策8の「持続可能な行政運営」の中で「健全で安定的な財政運営」を掲げている。また、この総合計画をもとに行財政改革大綱としてまた別の計画もあり、そちらの方でさまざまな取り組みをしようということになっているので、ご指摘のような財政計画については引き続きおこなっていききたいと考えている。

I 委員 : まず施策1の中で「安心して出会い・産み育てられる環境の整備」があるが、玉野市の中の産婦人科がどういう状況なのか。今後あるにしても、ただあるだけでは何も安心して産み育てられることにはならない。やはりサービスといったような、色々なことを考えていただきたい。

政策2の中で小中学校の適正規模化があるが、鉾立小学校の耐震など危険だと言われて1年生で入学した子が何も対策がないまま6年生で卒業となった。このことももう少し考えていただきたい。また適正規模化は小中学校だけではなく、商工高校の入試の来年度の倍率が出ていたが倍率が0.45というのはさびしいような気がする。これについての対策もよろしく願いたい。

スポーツ活動について、スポーツというのは生涯的なもので考えられており、いいことだと思う。ただ、大人になってするスポーツだけではなく、中学校なりのスポーツ部活動が今地域移行になっているが、今の状況で私の子どもの夏休みの部活動が3日しかなく、これは部活動になるのかという感覚だった。

最後に政策5「来て、見て、住みたい、にぎわいあふれるまち」について、玉野まつりや港フェスティバルといった祭りごとというのは、とても大切なことではないかと思う。教育等色々大切なことはあるが、玉野まつりも50年続いているもので、こういう歴史のあるものをやはり残していきたいと思う。

J 委員 : 総合計画についてはかなり多くの項目が挙げられているが、これは絞るということと一方で捨てるということが必要ではないかと思う。これだけ全部というのは難しい。特にこの要点を上げていくようなものについては、やはり積極的に取り組む、一方で諦めると言うのはなんだが、とにかく1点集中あるいは5点集中ぐらいにしてやってみてはどうかと思う。また当初数値目標を立てるといような話があったが、例えば人口減少の抑制に対する数値目標はあるのか。

事務局 : 人口については総合計画の12ページの基本構想の将来人口の表に具体的な数字示している。第2期たまの長期人口ビジョンのところで、将来的に人口何人を目指して様々な政策に取り組むかというところで、総合計画自体が2040年度を目標にした計画となっており47,000人を目指して計画に取り組

んでいる。

J 委員 : 全てのことにこの人口は関わってくるので、是非目標達成していただくということと、そのためにはやはり若い人たち、特に 20 代 30 代の子どもが産める世代を呼び込む必要があると思う。玉野市は便利がよくないということだが、そこは手当をしてほしい。そういった環境があっても移住してきてくれる、玉野市に住んでいただけるようなことであると、やはり支援金を出すとか土地を安く売ることや、市に直接関係することであれば固定資産税が出てくる。こういったものはいずれにしても財源が出ている形になるが、その財源をどうにか補う必要があるので、補填を考えなければならない。そういったときに補助金には常に目を光らせて、100%国から引っ張ってくるような形をとらないといけないと思うので、是非そのところをしていただいたらと思う。

今後、三菱がかなり造船を膨らまして、働き手が足りなくらいになっていくということを言われている。ピークになると多くの方々が玉野市に当面住むようになると思う。例えば自衛官の艦船の修繕が入って自衛隊の方々が玉野市で生活するとなると広瀬の集合住宅に住むということだが、これから個人事業主的な人がどんどん玉野市に入ってきた時に、市営住宅が修繕をした上で安い料金で会社または労働者の方々に貸すことが出来ないかと思う。働けば住居が必要になるので、どこの市営住宅がいいかは検討しなければならないが、その辺りの労働者が必要とするものを準備して、しっかりと玉野市で働いていただいて、衣食住に関しても玉野市でしっかりお金を落としていただく。そういったものが必要になってくるのではないかと思う。

もう 1 点は企業誘致について、企業誘致に対して十分なアピールがおこなわれているのかということが疑問になる。本当に企業誘致をしようと思うとやはり用地が必要で、このような用地があり、広さはこのくらいで、買えばこれくらいの費用が必要になり、賃借であれば毎月これくらいといった情報をどんどんと、少なくとも岡山県内ぐらいには発信して、そこでもまた固定資産税を抑制して減免するというような形をとるといった PR が必要ではないかと思う。

最後に、絞る捨てるという話をさせていただいたが、おそらく玉野市には各法人含めて、商工会議所や法人会、青年会議所、ボランティア団体、NPO とあり、若干の補助金は出さないといけないかもしれないが、そういった内容をそういうところと協働して、総合計画を各団体に適切なものとして割り当てたものを、また市の方で絞ってその各団体のミッションとして出して、それを達成していただくような方法も必要ではないかと思う。

H 委員 : J 委員の意見の中で企業誘致の話が出たが、玉野市の場合のご存知のように保安林が非常に多い。保安林を解除するのに手続き的には難しい。また用途地域もそろそろ外してしまえば、開発がしやすくなるのではないかと思う。全国的にもこの用途地域を指定すると、市街化区域、市街化調整区域等があって、工場用地を確保するのは非常に難しいと思うが、用途地域を完全に外

してしまうか、保安林の解除の手続きを簡素化するなど、何かやらないと玉野市は企業誘致といっても企業誘致すべき土地が非常に少ない。今の玉野市で企業誘致できる土地は非常にかぎられているので、そのあたりの法的な規制を外していただくようにしないと、企業誘致といってもどうにもならないのではないかと思います。

K委員 : 私どもは事業として玉野市、瀬戸内海の観光振興、文化振興ということをおこなわせていただいた。昨年国の観光庁や文化庁から補助金をいただきながら、玉野市にお金出していただけるようなイベントやサイクリングイベントを実施させていただいた。県外の方もサイクリングイベントに参加して玉野市を自転車で巡っていただくということを体験していただいたが、広島県の尾道から来ていただいた方が、玉野は初めて来たということもあり、広島とは違った雰囲気非常に美しい自然があって、特に王子が岳を訪れた時には非常に驚いて、また来たいと言っていた。私どもは自主的に補助金を調査して、国からの補助金を使いながらイベントを継続的にこなしているが、玉野市からの情報提供などがあるとありがたいと思う。また今回の自転車イベントでは県庁と連携をさせていただいたり、競輪ホテルと連携をさせていただいた。渋川といった玉野市の観光資源の点在している魅力、点の魅力を面でつなげるという形で、自転車が適しているとも思っている。そういったところと連携していきながら、今後イベントをする時にその場所の使いやすさのようなところを、自治体と協定して使いやすくしていただくとありがたいと思っている。

先日、兵庫県が「セトイチ」というルートを策定したという発表があったが、玉野市がルートに入っていないのでこういったルートに入れていただくといったことも、今後検討していただきたいと思っている。

L委員 : 観光の振興で渋川・王子が岳を取り上げていただいているが、文章になるだけでそれが活発になるかという、賑わったという話はほとんど聞いていないし、実際に行ってみてもそうだった。日本でも有名な渚百選にも選ばれており、王子が岳の眺めなども県外の方から素晴らしいと言われる。文章にはいつも出てくるが、玉野市の本気度を見せてほしい。これだけの立派な自然と浜辺とハイウェイがある、この3つが揃ったところでなぜ人が来ないかわからないが、そういったことは個人で考えることができないが公のところでしっかり考えていけば、須磨海岸に劣らぬ立派な海岸になるのではないかと思いますので、そこでの検討をお願いします。

もう1つは玉野市に白砂川という川がある。市がどの程度管理するかはわからないが、年に一度川掃除をやっている。しかし現在の奥玉地区は高齢者が45%という町で、集まるのは老人ばかりで掃除をおこなうと毎年1人は怪我をして救急車で運ばれている。以前、川筋にコンクリートを貼る前は玉野市が清掃していた。20年ほど前に国の方が清掃の日というのを決めて、その日に日本一斉の清掃日ということで白砂川が選ばれてそこで清掃をしている。これがだんだんと高齢化していくので、その対策について何か考慮す

ることがあるならお知らせしていただければと思う

事務局 : 白砂川に関しては対話集会の中でも話が出ており、またそれ以外にもここ数年、特にそういった相談があるというふうにいる。また、この場ですぐにするといった話にはならないが、担当課にそういった要望があったということは話をさせていただきたいと思う。

M委員 : 対話集会などがあつたが、こういった計画を立てる中で当事者の方の意見というのがやはり大切なのかと思つている。私も子育ての事など非常に気になっているし、障害者の方本人の意見ももっと聞いてほしいと思つているので、出来ればこういったことを継続的にやっていただければいいと思つている。

N委員 : 政策3「住み慣れた地域で、健康で元気に暮らせるまち」とあり、地区社協としてサロンを作つたり、ボランティアセンターを作つて地域の方の手助けをしたり色々なことをしている。サロンを作ると地域の方々が集まつてきて、お茶を飲んだり体操したり簡単な食事をしたりということが望みだが、なかなか集まる場所が確保できない。玉野市は渋川地区が一番素敵なサロンで、県外からもたくさん見学に来られるが、素敵なおところを見学に行つても、こんなのができたらいいなと思つるが、それが作れるかと言つたら無理な話で、それ以上は進んでいない。高齢者の方がみんなで食事をしたり出来る方がいいが、コロナの関係もあつて集まれてなかつたので、その場所を確保するのに市の手助けがほしい。

また民生委員になるのは3年間が任期ですが、この12月1日に新しい民生委員体制ができた。市内でも50人くらいが委員となつた。みなさんをお願いで、民生委員になるときは仕事をしながらでも民生委員になってもらいたい。会社から民生委員でいつてもいいというお墨付きがほしい。そうしないと若い人が民生委員にならず、高齢化しても次の人が見つからず大変な事になっている。ご協力をお願いします。

O委員 : この計画を見せていただいて、非常に膨大で雲をつかむようなところもたくさんあつて、こうなればいいけどそれを実行するために果たしてどういうことが具体的にできるのか、分かりづらいつという気がしている。私たち栄養改善協議会というのは、市民の皆さんの健康を守るために少しでもお役に立てたらということ取り組ませていただいているボランティア団体なので、その中で日頃の食生活を伺わせていただいているが、年々一人当たりの医療費が高くなつている。そしてなぜか玉野市は糖尿病からの透析治療になつてしまつ方が多い。それを防ぐ取組にも、取り組ませていただいている。透析をするようになれば1人当たり年間5~600万円ともいう額を聞いているので、早く見つけられたら、少しでもそれを予防できる。そしてお元気で、その地区で暮らしていけるような体制が取れたらいいと思つている。そのために活動させていただいているが、なかなか難しい。民生委員の方も言われていたが、私たちは全くのボランティアなので、参加していただける方が年々減つてきている。これは全県下的なものだが、平均寿命・健康年齢が上がるにつ

れて、皆さん一旦定年退職されてもまた再就職されたり、お元気な方はお孫さんお守りをするとか、それからもう一つが親御さんたちの介護が必要になっていくからということで、なかなかボランティアにも入ってもらえないが、日頃からのそういう意識改革をすることによって、自分の健康も守れるし、地域の皆さんの健康が守れてひとりでもその医療費にかかる金額が少なくなれば、また厳しい財政事情も変わってくるのではないかと思っている。地域的な取り組みは、市の方をお願いして、私たちもできることは微々たることだが、少しでも役に立てることを願って活動させていただけたらと思っている。

P委員 : 玉野市というのは本当に住みやすくて良いまちだが、若い人がたくさん住んでくれないとこれから先将来というものが無いと思う。そのためにはやはり企業の誘致や、若い人が住む場所がないといけないし、教育環境では、今の若いお母さんたちは子どもたちのために学校の問題があって、玉野に住んでいたけれど岡山方面に出ていくというのも、やっぱり教育環境が主になると思う。そういう方面も充実させないといけないと思うし、これから子育て支援には力を入れていかれると思うので、こういうことにも特に手を入れていただきたいと思う。

公共交通についてはシーバスやシータクがあるがなんとなく不便、公共交通があるのだが乗りにくいので、誰もが乗りやすいようにバス停の間でも手を上げたら乗せてくれるなどあってもいいかと思う。

渋川の水族館は県下で1つしかない水族館だが、昔から比べると良くなってきた。だが本当に県下で1つしかない水族館だということをもっと宣伝しながら、玉野市のアピールの一つとして渋川海岸、水族館や王子が岳をもっと外に向かって、玉野市にこんなところがあるというところも宣伝するのも一つの方法かと思う。

Q委員 : 施策16「産業の振興と継続的な発展」について、ここにも書いてあるように、現在の玉野市の産業は大変な変革の時期を迎えていると言えるのではないかと思う。先ほどから話があがっているパワーエックス社の蓄電池工場は、うまくいくと玉野市の状況を一変させる可能性があると思うので、是非とも成功させてほしい。将来的には蓄電池の廃棄物の処理の問題や従業員の住宅の確保の問題などがあると思うが、最大限の支援をお願いしたい。また政策8「持続可能な行政運営」について、今回記載されていないが、経常収支比率と基金残高の施策目標はこの総合計画全体の扇の要だと思う。行財政改革の話にもあったが、持続的な行政運営のためにも、その上位の計画としてこれは必要であると思う。最終的には経常収支比率は望ましいとされる80%以下。基金残高は将来の災害に備えるためにも、現在の50億円以上は望ましいと思う。検討のほどお願いする。

R委員 : 観光面について要望と知っていただきたい思いがある。玉野は何もないとよく言われる。遊ぶところがない、行くところがないとよく言われるが、玉野市は観光客数だけで見ると非常にお客さんに来ていただけるまちになって

いる。おもちゃ王国で言うと年間約 20 万人が訪れている。これは岡山城が概ね 20 万人だが、同じぐらいのお客さんが訪れている。さらに直島については、玉野より直島の方にお客さんが訪れているのではないかとされている方もたくさんおられると思うが、実際、直島は年間で 10 万人から 15 万人、よくいって 20 万人しか訪れていない。圧倒的に玉野のほうがお客さんも訪れているが、住んでる方が行くところがない、遊ぶところがない、L 委員からもあったが王子が岳に行っても賑わってないと言う。平日に行けば賑わっていないのはどこの施設もそうだが、週末は非常に賑わっている。王子が岳も昨年の秋には、駐車場が第 1 から第 3 までであるが第 2 まで埋まっているということも結構あり、たくさんの方が訪れているが、1 つの点にだけしかお客さんが行かない。点から線ということをや K 委員も言われていたが、そういった取り組みがまだできていない。できてないが、多くの方が訪れているということをやまず知っていただいて、玉野市にはこんなところがあるよというように PR していただければありがたいなと思っている。

政策 5「来て、見て、住みたい、にぎわいあふれるまち」について、「玉野市観光協会等観光関連事業者と検討を進める必要があります」とあるが、これといった具体的なことを示していただいて、これに対してこのようにしてほしいというようなことを書いていただければと思う。何か核になるようなもの、こういったものをやろうということをや、こういった場でもいいので皆さんの方からお声をいただいて進められれば良いと思う。

S 委員 : 総合計画の素案は現状を把握してどういう課題があるかということを手くまとめてられている。その対応策が予算の都合があるなどで色々難しい。別の行財政改革委員会では「身の丈にあった」と市の人口が減って、予算がない中で、たくさん良い意見があるがこれを全部実行したら予算が追いつかないと言うことで、J 委員からもあった取捨選択を事務局でしていただきたい。個人的には公共施設をどうするかということは非常に予算がかかることなのと、将来の玉野市を担う子どもたちの子育て関係、これは学校なり幼稚園などの統廃合を含んで、その辺を優先順位の上位に上げていただければと思っている。

T 委員 : 身の回りのことについて話をさせていただくと、老人会はここ数年、毎年 2、3 クラブが撤退しており、年間 200 から 300 人くらいが毎年減っている。そのため地域の活動がなかなかできないことに繋がっていているのではないと思う。もう 1 つ広げて言うとコミュニティも形が崩れている。町内代表が構成しているのではなく、手をあげた人が運営委員会という形でおこなっている。玉野市の広報が直接配られず、篤志家の手で配られている。私の地域などもそういう状態となっている。地域の活性なくして玉野市の活性はないと思う。今の基本構想の段階で具体的な事例を載せられてないのは当然だと思うが、なるべく早い時期に具体的な老人会や市民センターをどうするか、具体的な名称をつけたものにして提示できる方向にしてほしい。

E 委員 : 安全で安心な生活空間ということについて、先日接触性金属アレルギーと診

断されたが、市内や直島の工場の煙が原因かと考えられる。以前と違い現在は無害になっているようだが、市も注意して見ていただければと思う。

A 委員

： 総合計画の素案は全体として非常によくコンパクトにまとめられているものであるということは感じるし、意見を積極的に取り入れており、非常に誠実に作られていると思う。ただ同時に非常に総花的になってる。そもそも地域というは全ての面を持っているので総花的になるのは当然なのだが、ただ今回は柴田市政の第1回目の長期計画である総合計画なので、先ほどから何度も出ている「選択と集中」は難しいことだとは思いますが、やはりメリハリがほしいかという印象がある。

2点目として各論的な話をすると、政策6の「都市機能の未来」として未来会議や対話集会で出てくる交通基盤の整備の話が書いてないのは、全体のバランスから見ると違和感がある。

3点目はPDCAという話からすると、スタートの目標の立て方でその後のチェックが難しいような項目がいくつかあると思っている。また事務局の方に申し上げるが、これだとこの後大変ではないかと思うところがあるので、この指標については再度協議が必要かと思う。以上コメントとさせていただきます。

全体の総括という意味合いからすると、コメントでもあったが少しメリハリが欲しいというところがある。今日のご意見を拝聴すると、特に産業振興のところについて、何かしらもう少し市としての方針というものが明確にするべきと思う。学校教育の問題などについても、この場で色々と意見が出ているので、何かしらもう少し市としての言及があってもしかるべきかという印象を受けた。また連携、担い手、色々な団体の活動されてる方から、色々な支援をしてという話が出たが、市だけではできないことが多いというのは共通認識だと思うので、各主体との連携という問題も方法論として総合計画の中に明確に示されるのが望ましいのではないか思った。これが今日の総括的な話だと思うので、この話を是非ともこの後の作業に反映していただき、3月の議会を経てまとめていただければと思う。

事務局

： 今後については、現在パブリックコメントを募集中で2月3日が締め切りとなっている。1月22日には中央公民館で説明会を開催した。これらの意見と本日いただいたご意見を計画の方に反映させながら、3月議会に議案を提出して議決を受けて公表になる。

4 市長あいさつ

市長

： 長時間にわたり審議いただきお礼申し上げます。今回は企業誘致に関することや観光振興に関すること、また新しい企業へ最大限支援することや若い人が住む場所などについても様々な貴重な意見をいただいた。この総合計画自体は市政の方向性を定めるものなので、なかなか細かいところまで書かない部分もあるが、今後の市政に皆さんの意見を活かしていきたいと思っている。用途地域のことが出たが、これも市としての課題ではあるが、実際にこれを行おうとする

と県南広域都市計画区域という県南部の市と一緒にしたことになるので市だけでは出来ないところもあるが、何とかならないかということは私も以前から考えており、また研究していきたいと思っている。個別の課題も色々いただいたが、これはまたそれぞれ担当を含めて検討していきたいと思っている。今日いただいた意見に関しては、現在実施しているパブリックコメントの意見と合わせて計画づくりにしっかりと反映させていきたいと思っている。また、この計画の進捗管理についてもPDCAサイクルを意識して、この数値目標を達成できるように、しっかりとチェックをして市民の皆さんに報告できるようにしていきたい。

5 閉 会